

令和8年度受講生の募集について

募集期間	令和8年6月19日(金)～7月21日(火) ※募集状況により、締切日前に募集を終了する場合がございます。
受講期間	令和8年8月5日(水)～11月27日(金)
受講時間	10:00～16:30(12:30～13:30は昼休憩とします)
場所	【座学編】8月5日～10月9日 AP秋葉原(貸会議室)ほか 【現場体験実習編】10月16日～11月27日 実習先企業もしくはAP秋葉原(貸会議室)ほか ※ 最終日(11月27日)の全体報告会はAP秋葉原(貸会議室) ※ 状況によりカリキュラムの内容が変更になる場合がございます。
募集定員	【企業現役生】10名 【企業OB・OG】2名
受講対象	■生産管理や生産技術に関する実務経験があり、生産性向上の取り組みについて、予備知識を有する次の①ないしは②の方 ①企業現役生 ・都内中小製造業の経営幹部の方、現場責任者または経営幹部候補の方 ・PC入力作業の経験がある方(Excel・PowerPointを使った講義・資料作成があります) ②企業OB・OG ・大手ものづくり企業等の工場などで、具体的な現場改善経験が豊富な方(工場長など生産・製造部門での責任者としての経験が豊富な方) ・当スクール修了後は、都内の中小企業への派遣・支援活動が可能なた ただし、修了後の派遣・支援を保証するものではありません ※企業OB・OGの方は面接を実施いたします。
受講料	100,000円(税込/お一人につき)

東京都ものづくり生産性革新スクール(実践)受講企業の事例紹介
受講された企業の代表者と受講生にスクールで学びきっかけや、その後の活用状況について伺いました。是非、ご視聴ください。



【掲載企業】株式会社今野製作所、石原金属化工株式会社、武州工業株式会社、中西産業株式会社

スクール利用企業の声

株式会社鬼塚硝子 代表取締役社長 鬼塚 睦子 氏

弊社では先代の頃からスクールの案内をいただき、現場改善実践のために体系化された魅力的なカリキュラムだと考えていました。経営環境の厳しさが増す環境下で、生産性を改善・革新するニーズがあり、第6期(令和3年度)から3年続けて計6名の受講生に受講してもらいました。それまでは体系立った学習の機会もなく、社内に改善を進めるための基礎知識や手法を教えることができる人材もごく少数でした。しかしながら、受講後は、このスクールで学んだ『良い設計の良い流れ』を基軸とする知識や改善手法を積極的に活用して、部署を超えて話し合ったりする姿が見られるなど、部分最適から全体最適への変化も感じることができて嬉しく思っています。弊社では、このスクール開講の目的に合わせ、中核の人材に育てほしい社員を受講させており、今後は修了生が中心になってスクールで学んだことを社内で広く展開してもらえることを期待しています。



中西産業株式会社 取締役 鎌ヶ谷工場長 兼 技術部長 村松 道浩 氏

弊社では以前から改善活動を行っていたものの、なかなか目に見える実績を上げられずにいました。スクールに参加するようになって、2年、3年と続けて社員を受講させることで、改善手法を基礎から学んだ“仲間”が社内に入ってきて、『良い設計の良い流れ』に代表されるスクールで習得した共通言語が飛び交うようになりました。必要な知識を学んだ社員同士が共通言語で会話しながら自分たちで考え、行動していく姿を見て、体質改善を実感しています。さらに、インストラクターからの客観的なアドバイスも非常に的確で、改善した成果が実績として見えてくる。実績が見えると改善している本人の自信にもつながって、さらに改善活動が活発になっています。また、他社の現場(工場)に行ってお互いの現場体験実習では、自社との違いを見て、感じることもできるので、改めて自社の良い点、改善すべき点を意識できる良い機会になっています。



申込み・受講の流れ

1. お申込み	URLもしくはQRコードよりHPにアクセスいただき、申請フォームよりご応募ください。 申込締切 7月21日(火) ※募集状況により、締切日前に募集を終了する場合がございます。 [URL] https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/shien/genbakaizen_suishin/monodukuri_school_jissen.html [QRコード]
2. 受付	順次お申込みを受け付けます。 ※受講対象に該当しない企業様、企業OB・OGはお断りする場合がございます。
3. 受講決定/受講料振込	受講が決定された方には決定通知を送付します。決定通知後、開講日までに指定する口座へ受講料をお振込みください。
4. 開講	受講期間は令和8年8月5日(水)から11月27日(金)までの全19日間です。
5. 修了	※全体の出席率が8割に満たない場合、修了証を発行できない場合があります。
6. 自社の生産性革新へ	
7. 定石研究会(対象:全修了生)	



公益財団法人 東京都中小企業振興公社

総合支援部 生産性向上支援課

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町1-9
東京都産業労働局秋葉原庁舎5F

● JR「秋葉原駅」中央改札口徒歩1分

TEL:03-3251-7917

E-mail seisansei@tokyo-kosha.or.jp

ホームページ <http://www.tokyo-kosha.or.jp/>

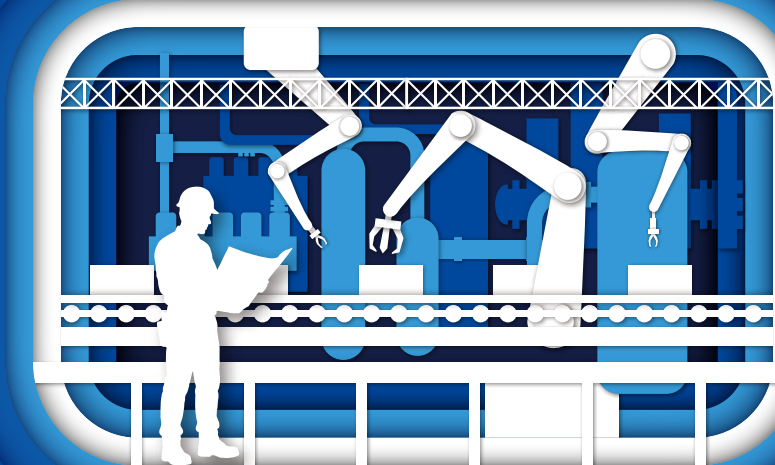


2026
8/5(水)
開講

TPI Tokyo Productivity Innovation School 改善なければ革新なし!

東京都ものづくり 生産性革新スクール

生産性を革新するための 『良い流れ』づくりを学ぶ 実践コース (アドバンス)



実践コースで現場改善にチャレンジしませんか?

STEP 01
現状把握

『全体最適』の
視点から現場を
現認する

STEP 02
課題抽出

成果につながる
真の『ボトルネック』
を抽出する

STEP 03
改善活動

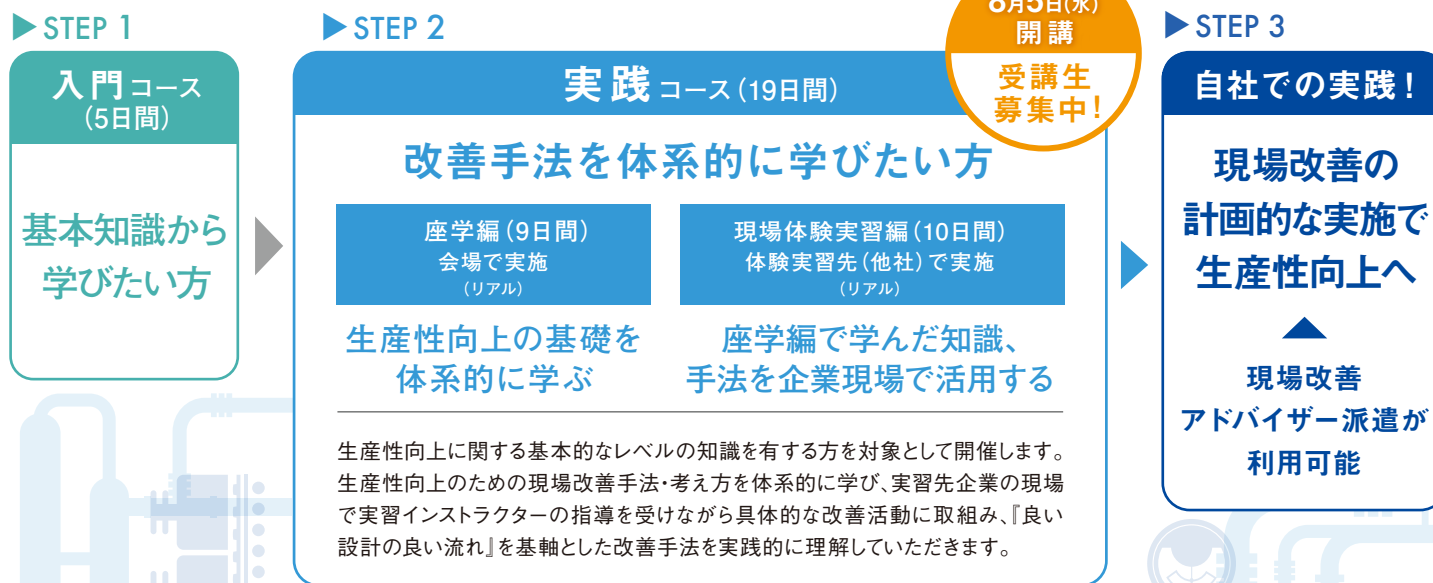
淀み(問題点)を
除き『良い流れ』を
創出する

『東京都ものづくり生産性革新スクール』とは？

新たな付加価値を生み出す中核人材を育成する

当スクールは中小企業の持続的な成長において、新たな付加価値を生み出す「生産性の革新」を担う「中核人材」の育成を目的として平成28年に開講し、本年で第11期目を迎えました。この間にも、技術革新やデジタル技術の導入は進みましたが、深刻な人材不足や世の中の賃金引き上げに向けた気運の高まり、さらに原材料価格や光熱費の高騰により、中小企業を取り巻く環境は大きく変化しており、生産性革新の重要性はますます高まっています。このような状況において、生産性を革新する方策として、『良い設計の良い流れ』を基軸とする「東京都ものづくり生産性革新スクール」実践(アドバンス)コースを開講します。

「東京都ものづくり生産性革新スクール」の構成



入門コースは実践コースの事前学習の場(プレスクール)になりますので、実践コースの前に入門コースを受講して頂くことが望ましいです。ただし、すでに理解活用している方は、実践コースからの受講が可能になります。

座学編 (9日間) 現場体験実習編 (10日間)

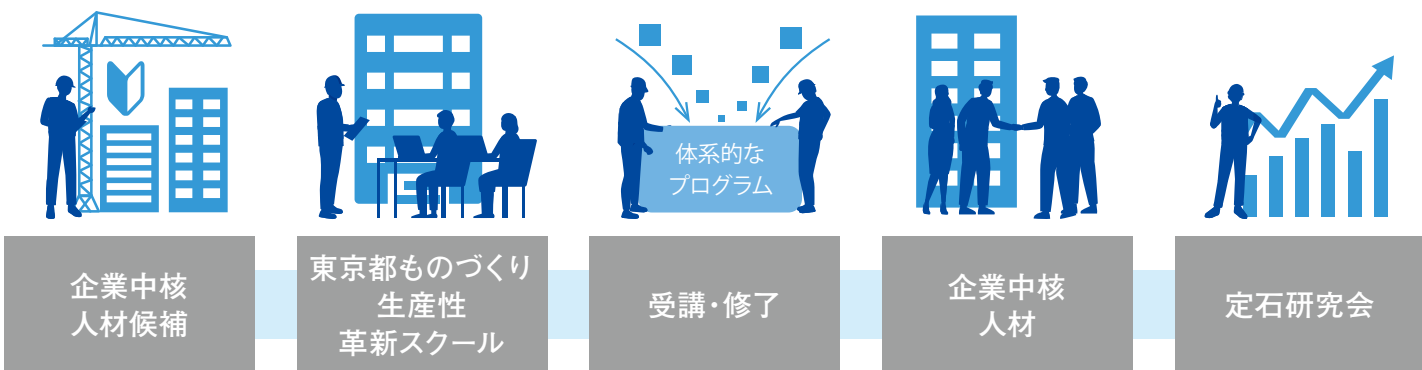
会場(秋葉原)に集合し、改善の基礎知識を体系的に学習していただきます。今年度は、他社での現場体験実習を計画しています。前半の座学編で学んだ知識を活用して、インストラクターの指導を受けながら、取り組んでいただきます。



※事前準備について
・PCやタブレット等の端末(PC推奨)とインターネット環境、メールアドレスが必要です。
・その他ご不明な点がございましたら、事務局※までご相談ください。 ※公社・生産性革新スクール担当(裏面参照)

『東京都ものづくり生産性革新スクール』の特徴

当スクールの研修プログラム、藤本隆宏氏(東京大学名誉教授)の支援を受け作成し展開されています。基軸となる「ものづくり理論」は『良い設計の良い流れ』であり、この考え方がスクール全体のベースとなり、体系的に展開されています。また、講義については、現場支援の経験が豊富な講師陣が担当いたします。スクール修了後、修了生の皆様には改善活動の中心となって活躍されることを期待します。なお、各期の修了生が自社での取り組みや成果を発表して相互交流する機会として定石研究会も設けています。



- 1 全体最適を目指し、藤本隆宏教授の『良い設計の良い流れ』を基軸にした現場改善活動。
- 2 座学で学んだ体系的な知識を、現場体験実習での現場改善活動を通じて、体験的に理解できる。
- 3 スクール修了後、経験豊富なアドバイザー派遣による継続的なフォローアップも可能。

『良い設計の良い流れ』とは

現場とは、付加価値の流れる場所であり、付加価値は設計情報に宿り、「良い設計」とは付加価値を拡大することであり、「良い流れ」とは顧客へ向かう付加価値の流れの淀み(問題点、ムダ等)を発見、改善することです。生産性を向上させるためには、ロボットやITを導入する前に、まず現場の流れを妨げる要因(淀み)を取り除き、現場に『良い設計の良い流れ』を創出することが必要です。

※良い設計とは、仕事の進め方・やり方、仕事のデザイン等を含め、広く考えています。

講師紹介

- 【主任講師】 竹中 秀夫**
グンゼ㈱出身。現場での生産管理・改善活動を経て、生産性向上、教育、人事と広範囲な業務に従事。東京大学ものづくりインストラクター養成スクール修了。
- 【講師】 堀井 求**
キャノン㈱出身。ものづくりにおける「淀みのない流れづくり改善」をモットーに現場改善に従事。東京大学ものづくりインストラクター養成スクール修了。
- 【講師】 松紫乃**
愛知工業大学・経営学部経営学科教授。博士(経営情報科学)。専門はものづくり管理会計など。企業現場での議論・分析から、理論の構築と検証を実施。
- 【講師】 国谷 晃雄**
キャノン㈱取手工場生産技術部長。ものづくり現場を歴任。国内外において生産性革新活動を支援。東京大学ものづくりインストラクター養成スクール修了。
- 【講師】 岸田 英俊**
㈱ブリヂストンにて、設備開発、工場建設、生産技術者教育に従事。北米、中国にも勤務。中国工場董事長。東京大学ものづくりインストラクター養成スクール修了。
- 【講師】 林 英夫** 武州工業株式会社 相談役
東京都青梅市にある同社の前社長。ITコーディネータ、日本商工会議所デジタル化推進専門委員会委員、青梅商工会議所 副会頭等を務め、広く企業のDX推進に取り組んでいる。
- 【講師】 伊藤 雄三**
米国系精密濾過フィルターメーカーにて、経営全般、工場運営に関与。企業の現場改善指導や経営アドバイスを実施。ものづくりシニア整備士。
- 【講師】 飛田 甲次郎**
元オムロン㈱執行役員常務。関西IE協会副会長などを歴任。全体最適のマネジメントに関する最新知識をわかりやすく説明することに定評がある。
- 【講師】 竹野 俊夫** 株式会社HRデベロップメント 代表取締役
高度ポリテクセンターを定年退職後、現場の設備保守メンテナンス技術者を育成する必要を感じ法人を設立。企業の現場にて具体的、実践的に指導している。「目で見てわかる 稼げる設備保全」等、著書多数あり。

※講義(座学)担当講師及びインストラクターは、参加人員等により増員、変更になる場合があります。

第11期カリキュラム

特色

- 「良い設計の良い流れ」を基軸とし、現場の生産性革新について体系的に学ぶ、実践的なプログラム
- 前半の座学編では、グループワーク、事例研究を通して実践的に学べるプログラム
- 前半の座学編で得た知識を実際に他社での現場体験実習で実践的に習得するプログラム

実践コース:座学編

No.	実施日	区分	午前	午後		
1	8月5日(水)	基礎	開講式 自己紹介・企業紹介	ものづくり基礎概念		連絡
2	8月21日(金)		QCの基礎知識と活用(1)		QCの基礎知識と活用(2)	
3	8月28日(金)		IEの基礎知識と活用(1)		IEの基礎知識と活用(2)	
4	9月4日(金)		全体最適による問題解決(TOC理論)		設備保全管理の基礎(保全と技能伝承)	
5	9月11日(金)		現場改善の進め方(基礎編(1):現状把握と問題点抽出)		「ものと情報の流れ図」作成演習(グループ活動)	
6	9月18日(金)		現場改善の進め方(基礎編(2):重点課題抽出と改善策)		「兆候シートと改善案」作成演習(グループ活動) 現場実習説明	
7	9月25日(金)	活用(特別講義)	特別講義1(DX化の基礎(1):現場で基礎を学ぶ)		特別講義2(DX化の基礎(2):現場の活用事例から学ぶ)	
8	10月2日(金)		特別講義3(生産管理の基礎(納期・在庫管理))		特別講義4(ものづくり会計(お金の良い流れとは))	
9	10月9日(金)		特別講義5(藤本先生から、良い流れづくりを学ぶ)		特別講義6(設備保全管理の事例から学ぶ) 現場実習説明	

実践コース:現場体験実習編(他社)

No.	実施日	区分	10:00	12:30	13:30	16:00	16:30	
10	10月16日(金)	実習先企業	現場体験実習(1) 概要把握(全体の流れを把握)		ものと情報の流れ図(確認)	現場体験実習(1) 流れを確認		連絡
11	10月21日(水)	秋葉原(公社)	グループ活動 ものと情報の流れ図作成(現状)①		自社活動準備			
12	10月23日(金)	実習先企業	現場体験実習(2) ものと情報の流れ図作成(現状)② 問題点の深掘り①					
13	10月28日(水)	秋葉原(公社)	グループ活動 問題点の深掘り② 兆候シート作成①		自社活動準備			
14	10月30日(金)	実習先企業	現場体験実習(3) 兆候シート作成② 重点課題設定① 中間報告会資料作成					
15	11月4日(水)	秋葉原(公社)	中間報告会準備	中間報告会	グループ活動 重点課題設定② 改善案の検討①	自社活動準備		
16	11月6日(金)	実習先企業	現場体験実習(4) 改善案の検討② 改善計画					
17	11月13日(金)	秋葉原(公社)	グループ活動 改善案の具体化と改善計画 報告資料作成・まとめ		活動計画作成			
18	11月20日(金)	実習先企業	現場体験実習(5) 報告会 資料の作成		報告会準備	報告会	報告会後の確認作業	
19	11月27日(金)	秋葉原(公社)	現場体験実習-全体報告会		自社での取り組み 報告・意見交換		修了式	

※報告会で発表して頂く資料は、受講生自身でPCにて作成していただく必要がございます。
※状況等によりカリキュラムの内容が変更になる場合があります。

2026年12月~ 2027年3月	自社で改善活動をスタートする		次の改善ステップ(定石)で進める		
	1. 改善テーマを決める	2. 問題点を抽出(兆候を捉える)	3. ものと情報の流れ図-現状の姿		
	4. 深掘調査⇒兆候シート作成	5. 改善案検討⇒兆候シート完成	6. ものと情報の流れ図-狙うべき姿		
	7. 重点課題の設定、方向性	8. 3ヶ月実施計画 役割分担	9. 改善活動を進める		

※必要により、アドバイザー支援制度の活用も可